

第2回 日田市環境審議会 議事要旨

日時：令和5年10月31日（火）14：00～15：30

場所：日田市役所7階大会議室

<出席者>

委員 16名（欠席 3名）

| NO | 該当号      | 所属                         | 氏名   |   |
|----|----------|----------------------------|------|---|
| 1  | 1号<br>委員 | 日田市議会                      | 高倉貴子 |   |
| 2  |          | 日田市議会                      | 松野勝美 |   |
| 3  | 2号<br>委員 | 日田市立博物館協議会                 | 奥森修二 | 欠 |
| 4  |          | 学識経験者                      | 諫本信義 |   |
| 5  |          | 日田市校長会                     | 甲斐圭介 |   |
| 6  | 3号<br>委員 | 国土交通省筑後川河川事務所<br>日田出張所     | 大島正一 | 欠 |
| 7  |          | 大分県西部保健所                   | 本多祥宏 |   |
| 8  |          | 大分県農林水産研究指導センター<br>林業研究部   | 亀井淳介 |   |
| 9  | 4号<br>委員 | 日田市自治会連合会                  | 橋本成人 |   |
| 10 |          | 日田市金融協会                    | 阿部修  |   |
| 11 |          | 日田市女性団体連絡協議会               | 田邊徳子 |   |
| 12 |          | 日田商工会議所<br>大分県建設業協会日田支部    | 河津龍治 |   |
| 13 |          | 日田市商店街連合会                  | 平川正路 |   |
| 14 |          | ひた市民環境会議                   | 甲斐美德 |   |
| 15 |          | 日田市民生活協同組合                 | 後藤哲也 |   |
| 16 |          | 一般社団法人日田青年会議所              | 清水勝  | 欠 |
| 17 |          | 水郷ひた再生委員会                  | 諫本憲司 |   |
| 18 |          | TDK株式会社三隈川工場<br>(ISO取得事業所) | 岩田昭雄 |   |
| 19 |          | ひた水環境ネットワークセンター            | 園田匠  |   |

事務局 11名

| NO | 所属                           | 氏名    | 役職等    |  |
|----|------------------------------|-------|--------|--|
| 1  | 日田市役所 市民環境部 環境課              | 佐藤野里子 | 部長     |  |
| 2  | 日田市役所 市民環境部 環境課              | 木村和心  | 課長     |  |
| 3  | 日田市役所 市民環境部 環境課 企画推進係        | 長尾真琴  | 主幹（総括） |  |
| 4  | 日田市役所 市民環境部 環境課 企画推進係        | 石井洋二  | 主査     |  |
| 5  | 日田市役所 市民環境部 環境課 企画推進係        | 梶原涼子  | 主事補    |  |
| 6  | 日田市役所 市民環境部 環境課 水・環境係        | 江田政嗣  | 主幹（総括） |  |
| 7  | 日田市役所 市民環境部 環境課 生活環境係        | 野村健一  | 主幹（総括） |  |
| 8  | 日田市役所 市民環境部 新清掃センター建設室       | 吉松徹   | 室長     |  |
| 9  | 日田市役所 市民環境部 新清掃センター建設室 施設整備係 | 朝倉康幸  | 主幹（総括） |  |
| 10 | 国際航業株式会社 西日本地域マネジメントグループ     | 松浦琢   | チーム長   |  |
| 11 | 国際航業株式会社 西日本地域マネジメントグループ     | 松本美保  | 技師     |  |

## <内容>

1. 開会
2. 部長あいさつ
3. 議事

### [審議事項]

- (1) 第3次日田市環境基本計画の後期重点プロジェクト(案)について
- (2) 地域再エネ導入計画及び地球温暖化対策実行計画について

- ① アンケート調査結果について
- ② CO2 排出量の状況について
- ③ 再エネ導入ポテンシャルについて

#### ○ 質疑・意見交換

(A 委員)

#### アンケート調査結果についての質問

① 日田市ゼロカーボンシティ宣言について、市民アンケートでは6割以上の人が聞いたことがないという結果だが、いつ宣言し、どのような広報をしたのか。

② 市長が変わったが、宣言は継続されるのか。

(事務局)

① 令和3年8月1日に宣言し、市報や市ホームページに掲載した。

② 日田市ゼロカーボンシティ宣言は継続する。

(会長)

日田市は令和3年3月策定の第3次環境基本計画に2050年実質排出量ゼロを目標としたことにより、同年8月に環境大臣よりゼロカーボンシティに認定されたが、市民に大きく周知されたことはないと認識している。

(事務局)

今回策定する計画によって周知していきたいと考えている。

(B 委員)

事業者アンケートの間20「地域新電力会社から電気を買うことを検討するか」の回答で「すでに導入している」が6件あるが、市内に地域新電力会社はない。これは他自治体の会社から購入しているという認識でよろしいか。

(事務局)

アンケートでは具体的にどこから導入しているかは確認できない。日田グリーン電力を指している可能性や、他自治体の会社からの導入実績があるという結果を得られたと考えている。

(C 委員)

#### CO2 排出量の状況についての質問

各項目の表にて、「①温室効果ガス排出量」と「③根拠」の数値を記載しているが、原単位を整理するなど、各年の変化が分かるような表現にしてはどうか。

(事務局)

計画書の中で整理する。

(A 委員)

人口が減少傾向であるのに対し、ごみ焼却量が増加傾向にある原因は把握しているのか。原因が分からなければ、CO2 排出量の減少は難しいのではないか。

(事務局)

ごみ焼却量増加の原因は特定できていないが、一人暮らしの方がごみの量が多くなることから、単身世帯数が増加傾向にあることが原因の一つだと考えている。対策として、市で自治会に出向いてごみの分別説明会を行い、ぎつ紙や段ボールを資源ごみとして出すよう説明している。

(A 委員)

ごみの量が少なくなるよう市民も努力していきたい。

- (会長) 市民への広報の予定などがあれば教えてほしい。
- (事務局) 次回の市報で清掃センターとタイアップし、ごみの分別や焼却後に出る残渣の写真などを掲載する特集を組んでいる。市報では三か月に一度「ひた環境ライフ」として特集ページを掲載し、ごみのことだけでなく、水環境や温暖化対策のことなども解説している。また、お盆や年末の大掃除前にごみ分別を説明したチラシを配布している。自治会への分別説明会は年間 10 回を目標として毎年行っており、これからも市民への啓発を続けていきたい。
- (会長) 一人一人が意識を向け、排出量を減らしていきたい。
- (D 委員) ①日田市の現在のごみ分別は何種類か。  
②分別の種類を増やすとごみが削減する傾向にあると聞いたが、今後そういった考えはあるか。
- (事務局) ①ごみの分別は 16 種類であり、主な内容は、資源ごみ（段ボール、新聞紙、雑紙）、ビン・ペットボトル、空き缶、可燃ごみ、生ごみ、粗大ごみ（家具）、有害物（蛍光灯、乾電池）、一升瓶、発泡スチロール（食品トレイ）、埋立ごみである。日田市の特徴として生ごみをバイオマスで処分している。  
②環境省がプラスチックごみの分別回収とリサイクルを推進しているが、受け入れる業者がなく、将来的には取り入れたいと考えているが、今は研究段階である。しばらくは現在の分別方法で推移し、紙のリサイクルに力を入れていきたい。
- (E 委員) 2011 年から 2012 年にかけて民有林面積が減少しているのは何故か。
- (事務局) 大分県林業統計データを用いているため、減少の理由は分からない。
- (F 委員) 民有林面積は、県庁の森林法に基づいた調査データを用いており、調査は 5 年に一度実施される。面積が減少した理由としては、国土調査や林地開発の影響が考えられる。
- (B 委員) **再エネ導入ポテンシャルについての質問**  
①建物系導入ポテンシャルのメッシュの色付けは、建物の屋根全てに太陽光発電を導入する想定か。  
②土地系導入ポテンシャルは、平地の遊休地に導入する想定か。
- (事務局) ①建物の屋根面積の何十％に設置するという形で、環境省が整理したものである。  
②平地への導入となり、傾斜がきつところは除外し想定してある。
- (B 委員) 現在、木が植えられている所に関しては考慮されていないのか。
- (事務局) 環境省のデータでは考慮されていない。次のステップで平地の中から低未利用地や耕作放棄地などを抽出・精査し、土地系導入ポテンシャルを整理する。
- (B 委員) 導入目標はポテンシャルの 14.7％とのことだが、太陽光発電を中心に考えているのが気になる。メガソーラーは天候に左右され、安定性に欠けることから、近い将来開発される蓄電池や自然を生かした中小水力・地熱発電の方が望ましいのではないか。先日の健康福祉まつりにて、イベント来場者に市に取り入れてほしいエネルギーについてアンケートを取ったが、小水力発電や木質バイオマスなどメガソーラー以外を望む声が多かった。
- (事務局) 太陽光発電を中心にするという表現は良くなかった。実際のポテンシャルを整理しながら、日田市に合った方法をご提案したい。

- (会長) 次回の審議会で提案してもらえるのか。
- (事務局) そうである。
- (A 委員) アンケートを見ても、取り組みたい気持ちがあっても何をしたらいいのかわからない人が多い。具体的に何をしたらいいか知らせていくと、市民も関心を持ってくれると思う。ごみを減らすなど身近なことはできるが、具体的に示してほしい。
- (事務局) 再エネを導入するとなると事業者や行政の大きな話に感じられるが、今回の目標はカーボンニュートラルであり、その中には市民ができる取組もある。本日、取組案を配布しているので持ち帰っていただき、次回ご意見をいただければ、市民が取り組みやすい計画として整理できるのではと考えている。
- (会長) 大きなくくりで書かれるよりも、市民ができる個別の行動などを表現してもらおうと分かりやすくなる。
- (事務局) 具体的な内容を再整理して提案する。
- (B 委員) パブリックコメントについて、市のホームページで意見が書き込めるのは良いと思うが、残念ながら多くの人に知られていない。ホームページのトップに案内が出ると、より多くの意見が素案の段階で集まると思う。
- (事務局) ホームページに関してはすぐに取り組む。
- (会長) パブリックコメントは中々反映する時間がないので、審議会で意見をいただきたい。
- (G 委員) 2013 年に比較して CO2 排出量が増えたが、市民の廃棄物の出し方が悪いからだと感じる。市は広報しているのに、リサイクルできる物を焼却ごみとして出している人が多く、分別が守られていない。これまで以上のごみの分別やマナーに関する周知が大事だと思う。
- (B 委員) 年に一度、市からごみ収集日を記載したチラシが配布される。その裏面に詳しい分別方法が書いてあるが、別の紙に印刷した方が目に入りやすいではないか。
- (事務局) 予算の関係もあるため別紙に印刷することをこの場で回答することは難しいが、参考にしたい。
- (F 委員) P39 の 2 つ目の記述にある「CO2 吸収量は林齢を重ねるごとに減少するため、林業の活性化による計画的な更新が重要」とは、CO2 吸収量が減少した高齢級の木を切って新しい木を植え直し、CO2 吸収量を増やすということだと思うが、今の表現だと木の成長と比例して CO2 吸収量が減少する一方であると誤解を招く可能性があるのでは、正しい表現に変えてはどうか。
- (事務局) 正しい表現に修正する。

## [報告事項]

## [その他]

## 4. 閉会

■実施状況写真

